かなれき川崎横浜支部合同例会（Zoom にてオンラ
日時　　2020 年 12 月 27 日
参加者　　13 名

【１】多事総論（一人２分程度自己紹介と関心事）
・都立大教職センター、新採用同期のＩさんの誘いで歴教協入会。開発教育にも関わった。
・東京都公立中学校。かなれきの ML で内容を見て楽しそうなので参加。歴教協はあまり参加できていないけど、教科研などで参加している。
・T 学園で非常勤をしている。ICT 活用ができるような対面授業を 2 学期取り組んだ。高３の授業も何とか取り組めた。中世の惣村、近世の交通とか内容は濃いので楽しみ。
・県立高校の世界史。久しぶりに古代中世を担当。中世ヨーロッパが自分の専門で楽しいが、生徒はこまっているかも。同じ中世ということで日本のこと関心あり。
・Y 学院で常勤講師をしている。高３の授業が２学期で終わったので、３学期勉強しようとしている。このあいだ国大の方が完全教職大学院になったときに、教育内容系がなくなるということを知った。教科教育教育実習をしていくときに今回のような内容的なことが聞けなくなるのだと思った。
・連合軍捕虜収容所の調査をしていて、POW で事典を作っている。K 大学の人権論の授業をする予定。
・春学期に社会科教育法をとって、今度の実習に向けて様子を知りたく参加をした。

【2】実践報告の検討
1. KoN さん「コロナ禍の教育実習レポート」
①報告
　公民担当だったが、コロナ禍で歴史分野に変更した。母校の M 校で授業をしたが、中学校は卒業していないので、はじめていった。人類学が大学での専攻。「中世の人々の営み」という授業にして、生活を主題とした。模擬授業が面白く、自分で授業の内容を考えたいと思って、あまり教科書を使わずに行った。マスク着用だったが、グループワークは普通に出来た。消毒作業は先生たちしていない。40 分の短縮授業。
1 時間目は「河原史」という絵をみてもらった後に、「中世の人々にとって河原とはどのような場所だったか」についてグループで読み取ってもらった。自由にいろいろしてもらうところ。2 時間目は室町時代の食文化。作る側と食べる側に分け、「本膳料理から中世にどんな人が登場した時代といえるか」考えてもらった。
3 時間目はそうという自治共同体の内実を多面的にとらえ、地縁的なつながりを持つ社会であったことを理解してもらうために、問いを投げかけ、グループで答えてもらった。前半は説明でプリント穴埋めをし、真ん中は史料から読み解いてプリントに書く。2 班ずつ 4 種類の史料を準備して、読み解いて、全体を突き合わせると多面的な層の姿が浮かび上がるとい

う構造にした。分担は中学生が好きだろうと思ったのと、他の人の読み取りを聞いてもらおうと思った。資料①トイが流された後に村びとが引き上げようとしている図。読み解きのヒントでは協力して生活していたということが分かるように出した。資料②菅浦荘が作った荘園絵図を示して、荘園同士の争論を読み取らせるようにした。資料③雨乞いの儀式や一揆をしているようすを絵で示し、この行事はどのような場所で行われていたか考えさせた。宮座を中心とした連帯を読み取る。資料④ワラビ粉が盗まれる惣村の事件の結果、犯人が殺害された事例を紹介し、誰が刑罰を下したのか考えさせた。読み取りをしたうえで、教員側のまとめとして、家族を超えた村単位での営みに変わっていることを確認して、血縁から地縁へのつながりの変化とまとめた。この授業では、①生徒同士が顔を突き合わせて話し合ってほしかった。生徒は、白黒のコピーのプリントをつかっていたが、カラーのものをグループに一つだけ渡した。②惣の実態の読み取りを資料からすることを教材の中核にした。創の特徴を自分で読み取り、自分の言葉でまとめるということをさせた。③教科書だと数行で終わる惣の多面性を自分で読み取り、共同作業をすることにこだわった。面白さはいろいろちりばめられたらと思った。④歴史上のできごとと今をつなげられたらと思った。惣や寄合のつながりを今につながる形で示した。反省点として、農業技術の発達と惣の誕生の説明が難しかった。読み取りの 4 要素は生徒に簡単すぎたようだ。もっと難しく考えていた。スライドに基づいて授業をしたので、予定調和のように感じた。スライドの文字がテストに出ると思って写していたのも、扱い方を考えないといけないと思った。それでも、自分の人類学ベースの授業ができたり、段どりを繰り返し確認したり、地縁的つながりについて話せたのがよかった。実習を終えて、教材研究は沢山出来たが、深い沼に入る感じがした。諦めや思い切りも大事だと思った。自分の持ってきた教材なのでやり切りたいと思った。歴博に行って中世の館を繰り返し見ることでひらめくこともあった。発問が難しい。指示が抽象的だと言われたので、その単元に即して何を自分は伝えたいのか考える大切さを学んだ。地頭の良い高校生に何を教えたらいいのだろうかと思った。知らないことを知るのは学びではなくて、悩み続けたり、面白さを見つけたりすることが大事なんだろうと思った。コロナ関係なくてもオンラインで学べるもの、塾で学べるものがある中で、学校に行く意味って何と考える。リアルに人と会って一緒にグループワークでともに学ぶことや、ともに学ぶ問いって何だろうとコロナ禍で考えた。

②質疑・討論

・惣という概念は中学生ではつかむのが難しいと思うが、具体的なもので分かりやすい教材があってよかった。どう伝えたらよいかと今も悩む。地縁的から血縁的といった説明に対して、生徒の反応はどうでしたか。
・生徒たちは資料を通じてどういうまとめをしたのだろう。
・どこから資料を持ってきたのか、教えてほしい。河原者というところは非日常的なところ。牛の皮を干しているところが自分には原風景。3 時間目について、民衆が中心がいい。そ

こで、支配者がいての話なので、そことの関係での結束が大事。農業生産力だけでは説明できないだろう。土一揆が村の垣根を超えて広がっているところも注目したい。物を盗んだ人を殺したのは誰かのところで、この絵も興味がある。

・生徒の感想というのは持ち出し禁止だったのでコピーなどもない。地縁的つながりへというのも生徒自身が読み解ければよかっただろう。この解釈を考えたのは、実習した中で気づいていった。言われれば村単位で協働作業をするということに気づくだろう。それを途中で気づいて教員から話したので、伝わったのかモヤモヤする。用語としての理解はできたと感想から思う。生徒発表を１分でとして、うまくしていた。自検断について「自分たちで処罰をしていると思う」とうまくまとめていたが、短い時間でこなしてくれたといったように感じた。資料は指導案の最後に載せている。生徒がぎょっとするような絵を選んだ。差別問題などに関心がある。最初は河原者のことから行こうとしたが、指導教官の先生から教育実習生がやるには重いのではといわれ、もっと勉強して配慮も必要といわれて、そこをするのはやめることにした。武士や政治史のことに対して、民衆の想いやこっち側を生きた人々のことに関心があり教材化した。民衆側の社会史を中心に考えた。

・資料を見せてもらって普通の実習生ではないなと思った。河原史、食、惣村のつながりは。

・どこを切り取ってもいいかと思ったが、中世の社会を複合的にとらえようと思った。物々交換の時代から、商業の段階に進んだとして、市を取り上げようと思った。それを何気ない生活の１ページという様子を伝えたくて、生活場面をクローズアップした。食は今もつながることなので、自分に関係あることとして取り上げた。営みという面でも見れる。惣村の取り上げ方についても民主主義的な取り上げ方もあるが、営みから切り取る。暮らしや文化的な面もあると思う。

・この授業の中で営みが生徒は見えたのだろうか。あと、地縁的つながりにたどり着く必要はあるのだろうか。

・教員が言っただけでは生徒がそうなんだと思わないだろう。本の中でこの言葉を見たときに自分がなるほどと思ったので伝えたかった。何か落としどころがないと、中学生が学んだと思えないのでは、と思った。でもそれを言うことで自分から出してしまうのはどうかと思った。

・資料③の円陣を組んでいる場面、資料④の親子で殺される場面、ここだけでやった方がよかったのでは。同じ格好でしているのか、なぜ殺しているのか、ということを問う。家族なら情があり殺さないだろう。同じ格好に民主主義的な姿にもなるだろう。中世ヨーロッパで領主裁判権ができるが、日本の惣は自分たちでしちゃう。

・実習生のレベルを超えたと思った。民主主義ということで惣村をとらえるという話があったが、それをするならばどういう組み立てをすればよかったと思うか。

・惣とデモクラシーの関係で組めばいいかと思った。指導教官は世界史の人で、どう扱ったらいいか自分も迷いがあると言っていた。その時の想いは、現在の日本と重ねたいと思った。一揆の方につなげたいと思った。現在の人々の無言の政治への見方と比べたいと思う。

・今とのつながりをよく言われるが、今と違うということも大事だと思う。近代の民主主義と一揆を比べるのは無理だと思う。中学生の歴史学習として中世をちゃんとするべきだと思う。河原というのは本当にそういうことを宿命づけられているものではない。差別問題も超歴史的に存在しているわけではないので、その時代時代での切り取りがあるのではないか。

2. KiY さん「教育実習報告」

①報告

初等教育科の免許をとっている。小学校は 4 月でも受け入れられるとのことだった。9 月 1 か月間実習をした。全教科を行い、体育や音楽も行った。32 回授業をして、教材研究は十分に出来ない状態だった。茨城の公立小だったが、塾に通っている生徒はほとんどいなく、活発なクラス。授業を楽しんでいるが、勉強が好きということではなかった。学習内容にどうしたら関心を持ってもらえるかなと考えて実習をした。

導入で身近な例を挙げたり、画像や動画を沢山紹介しようと思った。同じクラスで授業をしたので、だんだん作っていくことができた。

コロナ対策としては、グループワーク禁止とされていたので、隣の人との対話くらい。1 日 3 回消毒をした。検温は必須。会議も仕切り越し。学習の遅れは出ていなかったので、焦らずやってよいとのことだった。江戸時代の「新しい学問と文化」という単元をした。現在にもつながる内容があるので、共通点や相違点を探していくかたちになった。

古河は日光街道が通っていたり、有名な蘭学者がいたので、地域学習的なことを取り上げた。教科書に沿わないといけなかったので、プリントなども準拠のものを使った。ワークシートに沿って説明する。なるべく児童側から引き出せるように、全国にどうやって文化が広がったのか、と聞いた。ポスターを貼ったり、芸をする人が必要という声が生徒から出たので、歩いていくことが必要なので、道はどうつながったのか探るという筋道にしようと目当てを作った。大型のテレビを使いながら、五街道の中で古河が載っている地図を見せて、日光街道と東海道 53 次だけピックアップして話をした。地名を見せるとクラスの反応があった。時運の町にある日光街道の関連碑を休日に取りに行ってみせたら、見るなり子どもからここにあると説明し始めていた。日光街道と書いてあったので、あっちかなと言ってくれていた。ワークに戻って、田んぼや作物が増えたらどんな工夫が必要か、生徒にしっかり考えさせた。農具の話が出たところで初めて教科書調べをさせた。趣味や文化に変化が出てきたというところから、情報に展開し、瓦版を紹介した。交通・情報・産業がつながって発達したとまとめた。最後に自己評価をさせて返事を書いた。

実習をしてみて気になったこと。教科書から絶対に外れないでと何回も言われた。勉強が苦手な児童が多く、はじめて知る児童が多いので、まずは教科書で基礎をちゃんと固めないと応用は出来ないといわれた。資料も最小限にしてといわれた。なので、写真などは自分の判断で出した。また、教科書と逆のことをいうと混乱するので言わないでほしいといわれた。

旅をできた人がいたことが書いてあるが、できなかった人もいるはず。そういういけなかった人たちに言及できたらとおもっていたのだが。教科書以外学べないのかとモヤモヤしていた。大学では教科書以外で学ぶことを教わっていたので、困った。みなさんの教科書の扱い方を知りたいと思った。画像や動画はその瞬間楽しめただろうが、学びに繋がっていたのかと疑問に思った。興味から学習に発展させる難しさを感じた。授業準備も自分でするなら大変だろうと思った。教材の探し方を伺いたいと思った。楽しさと学習のバランスもご意見いただけたらと思う。

②質疑・討論

・富士塚の話と聞いていたので、今度横浜の富士塚について伝えます。一生に一度しか行けなかったり、行けなかったのでそういうのができた。生まれ変わることを期待していっていたのだろう。政治経済と交通を切り離すことはできない。大名行列など。経済が盛んになり節も移動したから、庶民もとなった。古河にも本陣があるので宿場町を起点に施行させても良かったのではと思った。「なぜ日光なのか」を考えさせたい。私学の教員だが、入試問題作るときには教科書からはみ出すなといわれる。小学校の教育実習の様子を聞いて沢山の授業をすることに驚いた。

・妻は小学校の先生だが、子どもに付き合うように自分で教材を開発している。大豆の種から育成したり、綿を使ったりしている。人間の歴史をつくる会や国語の研究会に行って学んでいる。子どもの感想はしっかり読んでいる。数学はそうではない。メリハリをつけている。

・教科書を教えるのか、教科書で教えるのか、の問題の根っこにあるのは落ちこぼれを作らないということだろう。小学校の理科や社会で何をしたのかというと、学習したイメージがない。落ちこぼれを作らない基本は国語や算数ではないか。理社などのコンテンツ科目は臆病にならなくて良いのではないかと思った。

・子どもの興味感想が画像から出てきたようということがあった。どうして子どもは楽しいと思ったのだろうか。そこが大事だろうと思う。勉強が面白いじゃんと思えることが大事だろう。それができることが落ちこぼれ云々に答えられるだろう。子どもが歴史にどういう疑問や興味をもったかが大切だろう。実習では指導教官の指導からは外れるのは難しいだろう。しかし、子どもの発想からは教科書から外れる可能性が出てくるだろう。こちらの意図したことをそのまま注入するのはマズイ。そこが教科書から超えることだろう。

・自分の写真を交えて紹介しているのがいい。近くには大山街道があり、石碑などが残っているので教材になるなと思った。江戸時代になって、太平な世になった時に、庶民も生活が豊かになった時に参詣を兼ねて旅行をするのが活発になった。当時の人々の姿がリアルに感じられるのではないか。教科書をベースに生徒に授業を発表してもらう取り組みをしている。教科書だけだと話は広がらないので、自分たちで調べたことを盛り込ませている。実際に教壇に立てば、教科書ベースに盛り込んだ方が面白いだろう。教材をどこか

らというのがあったが、NHK　for　school を適宜入れている。デジタル教科書から画像が取れる教材もあるだろう。

・教科書論でいえば、小学 4 年生で 4 社ある。教育出版はあくまで 4 分の 1。教科書は絶対ではない。4 冊持っていれば、教科書絶対化への反論になる。検定には問題があるが、国定ではないので、複数あることの重要性が分かるだろう。教科書は使えたら使った来意と思っている。教材探しとしては自分が面白いと思うものを探さないと、生徒には伝わらないのでそれをした方がいいと思った。子どもが〇〇が面白かったといったことをどう理解するかについては、授業のねらいに即しているかどうかという視点で分析したらいいだろう。狙い通りに授業が統制されていると思うので、そのねらいと生徒の感想を比べたらいいのだろう。ねらいが重要。

・小学校の理社で臆病にならなくていい、面白いと思うことが大切というのがなるほどと思った。私が面白いと思ったことを探そうと思った。それに沿って教科書を使えればいいのではと思った。

・Ko さんの話を聞いて、自分の体験と違うなと思ったが、Ki さんのは似ていた。

・自分たちの時は教科書だけ教えていればよかったので、大変だと思った。前川喜平は学習指導要領に法的拘束力はないと言っていた。歴史総合では資料や問いをどうするかを教員自身が考えることが大切だと思う。小学校だろうと中学校だろうといろんな問い

3. 例会後にいただいた感想

■藤沢の小学校に勤める S です。最近は、中学年と低学年の担任をすることが多く、6 年生の担任はもう１０年以上していません。なので、授業内容についてはアドバイス的なことはできませんが、感じたことや考えていることを書かせてもらいました。GIGA スクール構想の中で、これからの学習は、子どもたちにとっても ICT の活用が身近になり、使い方によっては興味を引き、学びを広げていく可能性があると感じてます。Ki さんの地域が、昔の宿場町であったことに興味を持ちました。写真も用意されていて、子どもたちには見たことのある建物などに興味を持ち、身近に感じたのではないでしょうか。私の勤める藤沢も宿場町で、学区の近くにあるので、私も 3 年生か 6 年生の担任になったら、歴史に詳しい地域の人に出会ったり建物を見学したり、昔の地図と比べたりするなどして社会の学習に取り組んでみたいなと考えています。教師は、教科書をはじめ知識を子どもに教えるという立場から子どもたちの学びを支える立場への転換、かつ柔軟性が必要だと感じています。私も教員１年目の時に、教科書から外れた学習に取り組もうとしたところ、指導教官から「教科書通りに進めて」と言われました。ですが、社会に関しては学習指導要領にも、「地域の実態を生かし、興味・関心をもって学習に取り組めるようにするとともに、調査活動を含む具体的な体験を伴う学習やそれに基づく表現活動の一層の充実を図ること。・・・議論したりするなど言語活動に関わる学習を一層充実すること。」と書かれています。公立学校は、教員の中でも様々な教育観があるので、これから勉強や経験を重ねる中で、自分なりの教育観を持

つことが様々な課題を乗り越える力になると思います。(私もまだまだ発展途上です。) 子どもたちが主体となって学習を進めていくために、学習の中で子どもたちが、「なぜ？」「どうして？」というような問いを持ち、豊かな学びにつながるような子どもたちの思考に沿った教師の支援のあり方をこれからも考えていきたいと思っています。そのためにも、教材研究（地域を知ること）は、やはり大切だなと感じてます。

■Ko さんへ。

①人類学は中高の教科にはありませんが、現場で考えるフィールドワーカーとしての視点は、実践という場面で通じるものが多くあると思います。私も、都立大で学んだ大塚和夫さんの「民族」のとらえ方や、民俗学実習の体験が時々思い出されることがあります。水俣病学習の中や、アイヌの学習、総合学習の中などでです。

②F さんの質問意見に絡んで、その人類学の発想を大事に、社会史の可能性と、越え方を、今後とも追及してほしいと思います。「営み」ということばからは、「しぐさ（身振り手振り)」のような身体的所作と、広い意味での「生業」という社会性を連想させます。小さな社会史は、政治史・経済史とは別の領域史となりますが、大きな社会史は全体史です（二宮宏之)。従来の惣村の学習的意義は、一揆に通じる点で意味があり、社会経済史を基盤とした政治史的な文脈に価値が置かれていました（教科書的？)。それとは別に、身体性に着目させることで、生徒に引き付けて考えさせたところに、今日の報告のキモがありました。今後さらに発展させて、単元構成をする際には「生業」という点で、大きな社会史を構想してもらえたらと思いました。そうすると、社会からみた向こう側（政治）が見えるのでは、と思います。③「農業技術と惣村がつながらない」という話がありましたが、一般的に、日本の農業は地理的条件から集約的経営に特徴があります。搾取が強化されることで、集約性が高まり農業技術（牛馬の共有や草木灰のもとの山など）と協働作業（田楽など。機械化以前は) が増えざるを得ません。この点も「生業」と政治経済がつながる部分です。

④問いの設定については高木さんが良い視点を提供してくれました。素朴な疑問から多様な可能性を見通すということでしょうか。ジグソー法的な活動と、みんな一緒のグループワークと、両方試してみるのも良いと思います。もうお読みかもしれませんが、千葉歴教協の絵画から学ぶ日本史の本や、加藤公明さんなどの社会史全盛期の絵画教材化を紹介します。

⑤「一揆と民主主義」については、②ともかかわりますが戦後歴史学の中で国民的歴史学運動の一つとして山城国一揆に関心が集まりました。コミューンみたいに考える人もいました。一方で、異文化として捉える研究も社会史の隆盛とともに広がりました（S さんの指摘とも重なるかと思いますし、Ko さんの関心も実はこちらでは？)。また、近代ですが、民衆暴力みたいな視点で暴力をとらえなおす藤野裕子さんの研究は、歴史学を超えて結構支持を集めています。これらのスタンスの違い自体を教材化することもできます。

⑥以上から、「地縁的つながり」という概念を分析的に生徒が把握するだけでなく、「なぜそ

うなったのか」を時代感覚の中で腑に落ちると面白いですね。

⑦教材研究は確かに「沼」になると思いますが、実習のような期限を設定しなければ、ライフワークになる面白いところです。研究とは違う実践的な魅力です。私は、教材は最高かつ決定的なものを単純化する形でしめす（田中裕一）ためには、実践者の直観が、研究とともに大切だと思います。その点は法則化できないアートな部分だと思います。今回の絵画史料は成功していたと思います。

■人類学をやったと言っても、学部生のレベルなのでまだまだこれからですね。でもせっかく自分の興味に出会えたからこそ、この視点は教員生活を通しても大切にしたいものだと感じています。学生はそろそろ終わりますが、人類学の基本書をはじめ、様々なエスノグラフィーを改めて読んだり、自分の足で確かめたりしながら深めていきたいです。実際の先生方に報告をすると、よりよい授業案が生まれたり、或いは私のやりたかったことを言語化していただいたりと、ものすごく勉強になります。昨日もメモが追い付かないくらい、頭の整理も追いつかないくらいでした。「営み」に含まれる多様な意味に関しても、O さんから「言い換えると？」とご発言いただくまで深く考えていませんでした。②にあるようなことまで考え付かず、そういう俯瞰で見ることがまだまだだなと感じます。実習で担当する授業は数回なのでなかなか全体を見るということまで考えが及びませんが、やっぱり学習を広く捉えて、どういうねらいにするか、何を考えてほしいかを熟考することが大事だと実感しました。皆さんからのご意見ご指摘が結構難しく、答えになっていないような回答をしてしまいましたが、それだけ実践として面白いと思ってくださったのだなと（自分でいうことではないのですが）思ったりもしています。実践者の直感、大事ですね、その直感を研ぎ澄ますためにも、いろんなものに日々アンテナを立て、貪欲にあることが、教材研究がライフワークであるということなのかもしれません。自分の思ったこと考えていることを的確に表す言葉が見つからなくて、とても悔しく数分ずつ勉強不足を実感しております。拙い報告ながらもお聞きいただいた小川さんはじめ皆様に感謝いたします。お忙しい中、こういった機会をいただき本当にありがとうございました。今年初めて(オンラインで)お会いしたばかりなのに、たくさんお世話になりました。こちらこそ、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

（Ko さん）

■Ki さんへ。

①教育実習の意味です。実習には生徒との「良い思い出」という部分もありますが、限られた期間の中でいくつかの文脈があり、振り返ることで様々な解釈ができるものでもあります。思い通りにならなかったところも、学校教育の一面では確かにあるので、その意味を反芻する機会になります。とりわけ、大学での学びが継続できる木村さんには、実習経験を時々振り返り、自身の研究テーマを深めてほしいなと思います。

②事前にレディネスを調査していたところが良かったです。調査して木村さんがどんな感

想を持ったのか聞きたいところでもありました。知っているモノヒトによりかなり差があるということや、「見たり聞いたり」と重ねて聞いた意味に関心を持ちました。

③「興味」は引き出せても、そこから「学びに向かわせる」ことのほうが大事、ということに課題意識をもったというところが、とても大切だと思いました。授業や日々の実践の核心部分になるので、S さんが「ねらいに照らしての振り返り」と表現していたことに通じますが、ぶれない軸の一つに、おきつづけると良いのでは、と感じました。

④「教科書から外れないで」の話ですが、そう先生が言った背景として、「基本の定着重視の姿勢」がある Ki さんが理解し、報告してくれたことも良かったです。それがあったことで、Y さんの「理社は臆病にならなくて良い」のではの発言にもつながりました。指導教官の先生の発言や、実践者としての姿勢の本質は、そこにあると思うので、教科書の部分だけを引き取るとズレた文脈で経験を意味づけることになったかもしれません。

⑤Ka さんがおっしゃっていた、子どもの興味や疑問の中に、教科書を超える種があるというのは、民間教育団体において様々に引き継がれてきた大切な視点です。今日、Ko さんがベースにしていた網野善彦さんの生徒の疑問から天皇制研究に入ったという伝説化した話や、教育法で紹介した安井俊夫さんの子どもが動く社会科なども、その事例です。これらに共通するのは、最初に授業をした時には、教科書を超えるというところまではいかないが、教師の中で子どもの疑問が種となり、次の実践や研究への動機づけになっているところです。次に同じところを授業するときには同じような教材を使っても、しっかり反省的に捉えたら（今日のような共同で実践を検討する場が大事）違う取り上げ方になったりするものです。

⑥教材準備は、T さんや Y さんがおっしゃっていたように、小学校の場合メリハリをつけて、Ki さんの「ここは」と思う教科で力をいれて、その他は思いっきり「手を抜く」ことが、特に最初の 3 年は大切だと思います。サイクルを重ねるごとに少しずつつかんできたり、見えてくるでしょう。社会科の場合だと低学年（生活科含む）の場合、モノにこだわりたいです。ユニークなモノや外国との比較、モノからの広がり方などを調べてみると立体的になると思います。実物と『～モノ事典』みたいなのは思いきって買ってしまいます。高学年だと、歴教協のような民教団体の実践集（中学含む）を入り口にするとよいのではと思います。あとは、最初のころはこういう研究会関係者にメールとかできくというのもいいと思います。

⑦せっかくなので富士塚の指導案も皆さんに見てもらったら、と F さんの発言を聞いて思いました。したくてもできなかった「教科書にないほう」からのアプローチとして。関連して、今日の「交通」の話から「情報」へという展開が面白かったです。富嶽三十六景や瓦版などの文化形態は、移動を伴わない情報入手（通信的）でもあり、前も言ったことですがコロナ禍だからこそ見える庶民感覚だと思います。

■正直なところ、教育実習中は指導教官の先生に反抗心をもちすぎ意地になっていた部分

もありました。しかしこの報告会の準備や今日皆さんからいただいた感想を通して、冷静に振り返ることができました。指導教官の先生にも意図（基礎定着に加えて、多忙になり過ぎないための配慮など）があって、私に指導をしてくれていたこと。教科書を徹底的に分析して見えてきた、教科書の考えこまれた構成。教科書ベースにしていても問答無用で外れていく子どもたちの興味の的など…。改めて考えてみると教科書に一番こだわってしまっていたのは私だったのかなとも思いました。結局のところ授業の主役は子どもで、子どもが教科書の内容にくいついたならそこを深めていけば良いし、そのほかの部分で興味をもつようならばそちらにシフトしても良いのだと気が付けました。そしてそのように運ぶために、徹底的な教材研究や資料の準備、発問の仕方などが重要なのだとも思いました。教材研究については Ko さんや O 先生のおっしゃる通り、メリハリや手を抜くことの重要性を実習中に身に染みて感じました（もしかしたら私の指導教官の先生にとっては社会がその教科だったのかなとも改めて思いました）。社会を自作のワークシート形式にしたことを途中で後悔したこともありましたが、子どもたちの感想やメモに毎日コメント返しをしながらやってよかったなと思えました。実習校の先生に褒められることもやる気になっていましたが、子どもたちの嬉しそうな反応や「先生の授業って楽しい」という言葉が何よりものやりがいになりました。教師という職業の面白さや、現・退職の先生方「本当にいい仕事だよ」という言葉の意味を少しでも理解できた気がしました。富士塚に関してですが私も指導案だけでもぜひ見て頂きたいなと思いました。すべてが空想なので無理がある部分も多々あるとは思いますが、他の方の意見も聞いてみたいです。

大学院では引き続き道徳教育について研究をしていきたいと思っています。テーマとしてはざっくりですが、社会に根ざした（市民教育的な）道徳教育といった感じです。物語を読んでそれに対しての個々人の感情の問題で終始するのではなく、子どもたちの身近な問題やテーマを取り上げ、時に学校外に出向いたり時に当事者の話を聞くなど通して、「共感」をもって現代の社会問題と向き合っていけるような学習内容の提案をしたいと思っています。そこには公民で学ぶような私たちの有する権利を理解することをはじめとして、社会科的要素が大きく関係してくると考えています。まだまだ理想論の段階ですが、いつか具体的な形にして先生に説明できるようこれからも精進していきます。重ねてになりますが、今回のような貴重な機会にお誘いいただき本当にありがとうございました。今回の学びや気づきを起点に、これからも自分の中の授業への取り組み方や教師とはという問いを深めていこうと思います。（Ki さん）

■横浜の富士塚、巨大なものが多い印象です（全部観たわけではないのですけど）。多くは農村に造られたので、スペースに余裕があったのでしょう。明治以降、築造されたものもあり、江戸時代に特有と言い切れないです。富士講の一行は富士山に登った後、大山に寄ることも多かったみたいです。「片参り」を嫌い、女神（富士）・男神（大山）の両方に詣でたとか。また参詣後の帰路は「精進落とし」と称して、酒色にふけったともいいます。

大山街道（矢倉沢往還）は東海道の裏街道（バイパス）で物資の輸送はこちらがメインだったと言われています。東海道の宿場は栄えていますが、旅人にとっては様々な誘惑があり、散財の危険性が高かったそうです。往路と復路で各々の経済事情に合わせて東海道と大山街道を使い分けて通行したとのこと。富士塚も大山講も十分に魅力的な教材だと思います。自由に旅ができないコロナ禍の現在において、より児童生徒を惹きつけることができるかもしれないですね。

■S です。富士塚の指導案と富士塚の資料は、とても興味深く読みました。北斎美術館のように藤沢に藤澤浮世絵館があるので、課外授業として学習に取り入れてみたいと思いました。ところで、私は関西育ちなので、育った地域からは富士山は見えず、富士塚（富士山）は全く身近ではありませんでした。奈良の大和文化や京都の平安文化、大阪の町人文化などが身近で、江戸文化はどこか遠いものとして感じていました。富士信仰も身近ではなく、こちらに来て、関東の人は、富士山が好きだなと感じたのを覚えています。ですが、西でも近くの山を親しみを持って〇〇富士と呼んでいる地域もあります。今回、地域によって文化の違いが（個人的ですが）おもしろいなと感じました。藤沢も宿場町だったので、その頃の様子をさっそく詳しく調べてみようと思います。興味が広がりました。ありがとうございました。

■動画を視聴し、古賀さんと木村さんの報告の感想を書きました。以下、感想です。
Ko さん
まず、Ko さんの資料収集、教材研究の点で、熱意が伝わってきました。中学生の中世の授業とは思えない内容の濃さに、感心いたしました。Ko さんは、スライドの予定調和感を気にされていましたが、授業のねらいに向かって教員が誘導していくという点、特に中学生の授業であることを踏まえると、そんなに気にしなくても良いと考えました。個人的に感じた点では、資料が豊富であるがゆえに、授業内容がボヤけてしまいそうだなと考えました。生徒に考えさせる授業である点で、考える材料がたくさんあるのも良いと思うのですが、ジャンルの違う資料が揃っているので、少し、惣というものを捉えるのが、難しいのではないかと思いました。また、惣をみるときに現代と比べることも、身近に感じやすく、私もそのように考えてしまうのですが、大事なのは、それ以前の農民、民衆の暮らしと、どこか違うのか、惣という自治がなぜ出来たか、という点であると考えました。教材研究沼、とても共感いたします。特に、社会科は、ゴールがないので、やればやるほど、紹介したい内容が増えて、大変ですよね。私も、教材研究、資料収集を見習いたいと思いました。
Ki さん
　小学校の教育実習の大変さが伝わりました。多くの教科を持ちながら、社会科でこのような内容の濃い授業づくりをされていて、感心いたしました。手作りのワークシートも、小学生用でありながら、内容や資料が深く、中学校の授業でも活かせるレベルで、完成度が高い

なと感じました。議論のなかにもありましたが、小学校の社会科の授業であれば、まず社会科が楽しい授業であると、生徒が感じることが出来れば、成功なのかなと考えました。その上で、授業のねらいが、生徒に伝わっていれば、大成功なのかなと思いました。教科書論争、とても勉強になりました。やはり、実習生という立場の難しさもありますね。そのなかでも良い授業をつくろうという熱意を、私も見習いたいと思いました。ありがとうございました。他の先生方のコメントも、とても勉強になりました。

リアルタイムでの参加はできませんでしたが、このような形で、お話を聴けたこと、とても嬉しいです。ありがとうございました。福永先生の富士塚調査の資料も、新鮮な内容でした。また、次回以降の例会のご案内もありがとうございました。是非、次回こそは、参加したいと存じます。

■・Ko 報告の感想

「教育実践家としてのデビュー作」と言ってよい内容で、教育実習であそこまで出来るのは、末恐ろしいと感じました(褒め言葉です)。また、ki さんの報告で S さんの方から「結局の所、教員が面白いと思ったことで授業をすればいい」という発言がありましたが、ko さん自身が、報告で授業を振り返るという行為を楽しそうにしていましたので、そこもクリアできていると思います。色々感じることはあったと思いますが、およそ経験が解消する部分も大きいので、今後も何かしらの場を持ちながら頑張っていって下さい。また是非どこかで「次回作」を期待しています。

・ko 報告への質問

Q．教育実習での研究授業の研究協議では、どのような意見が出ましたか？

(質問の意図)→私自身が授業の際の「環境」に重きを置く立場です。この授業が教育実習生のレベルを超えているのは、誰が見ても明らかだと思っています。そして、この授業は、教材論と教育論の双方に力を入れたもので、だからこそ、将来性を大きく感じるのですが、それに対し、好事家的な教員が教材について重箱の隅をつつくだけ、だったり、あるいは教育者の実質を失いただの小役人に成り下がった管理職が浅い教育論で好評をする、となるのは残念に思います。そういう「居心地の悪さ」とは縁遠い学校だった感もあったのですが、この点を確認させて下さい。

・ki 報告の感想

報告お疲れ様でした。議論では出ませんでしたが「教科書通りに」という要望は、実は保護者・生徒からも多く上がってくるかと思います。また現在の公教育は「リスク 0・クレーム 0」に躍起になっている感があるので、結果、見たとおりの状況になっています。

そうした状況について、ふと思い出したのは、中学の社会の先生が言っていた次の言葉です。「社会科は何をやっても社会科です」。小学校で「生徒が面白い」と思うものを開発しようとすれば、ほとんど社会科でできます。小学校の学級担任制は大変な一方、好きに出来るのは強みです。「教科書絶対主義」に対する違和感はありそうでしたので、それを忘れずに

頑張っていって下さい。

■ko さんの発表･･･「中世の営み」について
「中世の社会」というテーマに迫った奥深く、私自身も考えさせられるような内容の発表でした。惣村における「宮座」や「地下検断」などの資料が豊富で、教材研究に注力している様子が伺えました。生徒達のイメージ付けの為にも、イラストなどを挿入する事が大切であると、改めて感じました。私も図書館や資料館などで資料集めを行おうと思います･･･山川の教科書では「自然発生的」に「惣」が誕生したとありますが･･･実際には農業技術の進歩や、惣領制衰退による「血縁社会」から「地縁社会」への転換(南北朝の動乱)といった背景があったり、或いは、荘園制も徐々に衰退する中、武家中心の社会で所領を守るための「自衛」といった側面もあると考えられます。一部の百姓が武装して登場した「地侍」もその一例でしょう。様々な視点から考察していくことで「中世」とはどんな社会であったか、本質的なものは何かと考えさせられます。今回の発表を通じて刺激を受けた部分は、現役で講師を務めている私ですが授業づくりの糧にさせて頂きます。発表お疲れ様でした。
Ki さんの発表･･･「近世の交通」について
江戸時代に入ると、産業や経済が発達し、街道も整備されるようになりました。庶民の生活にゆとりが生まれ、庶民たちは「旅行」を行うようになりました。しかし、「入鉄砲に出女」という言葉もあったように、庶民の移動は厳しく制限されていました。その様なこともあり、神社仏閣への「現世利益」(＝近世は家内安全や商売繁盛などが多く、産業や経済の発展が伺えます)祈願の名目で、旅行をする事も多かったそうです。寛政期における玉餘道人(詳細不詳です)の『相州大山順路之記』という史料によれば、江戸の庶民が、日本橋から甲州街道で富士山を目指し、須走(富士山東部)を経由して、丹沢・大山を参詣した後、相模平野を横断し、江ノ島・弁財天や鎌倉・鶴岡八幡宮にも足をのばしたことが記されています。また、江ノ島の近くの藤沢宿の遊郭に立ち寄る者や、鎌倉時代に港町として栄えた景勝地、六浦(現・金沢区)に訪れる者も記されており、参詣と物見遊山がセットとなっていたそうです。産業・経済が発展しながらも、根底には信仰が常に結びついている江戸庶民の様子が伺えます。こういった点、生徒達にも気付いてもらえたら、いいなと思ったりします。同じテーマでも、工夫次第で様々なかたちの授業をつくることが出来ます。歴史の捉え方は自由だと私は考えます。必ずしも教科書に拘る必要は無いと思います。教壇に立った時には是非、自分のやりたい授業を実践してみてください。発表お疲れ様でした。

みなさまありがとうございました。

【3】今後の予定
１．次回（予定）

①時期:2 月 21 日(日) 16～18 時 オンライン例会

②内容:
A)【横浜から世界を考える】鈴木晶さん「『旅行ガイドにないアジアを歩く　横浜』を出版して」(仮)
・序章を読んで、制作に関し鈴木さんの話を伺う。⇒2021 年 2 月
・2021 年秋ごろ第 1～5 章のなかから 1 章分選んで読み、神奈川歴教協 FW を計画する。
B)【感染症と歴史教育】TM さん「高校3年生での感染症の授業(仮)」

２．今後検討したいこと

①「感染症と歴史教育」: Ma さん⇒E さん⇒Mu さん⇒Ko さん・Ki さん⇒Ta さん

A）感染症の歴史の授業（対象）

B）感染症から見える教育（方法）

C）分析視点:トピック

・政治：休校判断、緊急事態宣言、専門性（科学）と民主主義、人種差別、米中冷戦

・経済：グローバル経済、成長と生存、消費や流通の変化

・社会：格差（エッセンシャルワーカー)、差別（名称)、自粛、環境問題

・思想文化：コロナアート、恐怖と不穏（ゾンビ、怨霊)、科学

②【今、「戦争」体験と向き合う】北川直実さん「戦後 75 年企画　2020 年に 10 代 20 代のあなたへ」に取り組んで

・4 月例会で Kit さんからプロジェクトに 1 年間取り組んで若者と戦争体験の関係で考えたことを報告してもらう。

・Ki さん、Ya さんから若者から若者への手紙をもらう。横浜国大などで『若者から若者への手紙 1945←2015』英語版を教材活用。

③「歴史総合」実施に向けて

・歴史教育者協議会編「世界と日本を結ぶ「歴史総合」の授業」(2020 年）手塚優紀子さんの帝国主義関連の文章あり

・『歴史地理教育』7 月増刊号

④横浜から世界を考える

・フィールドワークと絡めながら横浜から世界的な視点を獲得できる実践・研究報告を検討する。